

高小コミスクだより

No.20 H29.2.13
かほく市立高松小学校
校長 喜多由紀
CN 楠 千恵

指文字・手話をならって

4年生が総合的な学習の時間に、福祉の学習で老人や障害のある方の理解を深め、自分でもできることを考えています。

これまでに、障害者の方との交流や、車いす体験や高齢者疑似体験をしたり、一人暮らしの方への葉書を書いたりしてきました。

今回もその学習の一環として、高松の「あやとりの会」の6人のゲストティーチャーから「指文字や手話」を教えていただきました。子どもたちは、手話での挨拶の仕方や指文字での名前の表し方を、とても真剣に聞いていました。その後、教わった手話で、自分の名前を嬉しそうに披露していました。

ゲストティーチャーの皆様は、子どもたちが家の方にもお知らせして、手話への関心や取組が広がってほしいと、おっしゃっていました。



器械運動楽しい！

水泳指導でもお世話になった西田先生や安達先生に、今度は、マット運動や跳び箱など器械運動のゲストティーチャーをしていただいています。1・2年は3回、3年は4回教えていただきます。

3年生は、両足で踏み切ることや、手を遠くにつくことなど、具体的な跳び方をお習いし、跳べるようになりたいと意欲的に練習しています。

2年生のマット運動の前転で、「こんにちは、くるりん、ばんざい」と言いながら、模範演技をしてくださったところ、子どもたちは喜んで口ずさみながら、楽しんで前転の練習をしていました。にこにこ顔で、とても楽しそうでした。

